



今年も、日本アセアンセンターの事業に協力 ー海外出張から作品製作発表へー

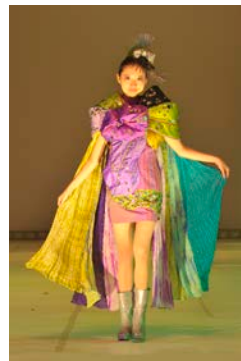
文化服装学院は昨年に続き今年も、国際機関日本アセアンセンターが実施する事業に協力し、11月に開催された文化祭ファッションショーのシーン「ASEAN」の制作に取り組んだ。

シーン「ASEAN」は、東南アジア諸国連合（アセアン）と日本国の11カ国を加盟国とする国際機関「日本アセアンセンター」と文化服装学院の共同事業として企画され、アセアン諸国のテキスタイルなど素材の素晴らしさを日本に紹介するとともに、学生たちが成長著しいASEAN諸国の繊維産業・文化・社会に触れ、理解を深め、国際感覚を養うことを目的に、今年も学内で選抜された学生の代表6名が、ミャンマー、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナムの5カ国を訪問し、各国の伝統や技術に裏うちされたメイド・イン・アセアンの生地などを発掘、それらの素材で製作した作品により1シーンを構成した。

文化祭の初日には、日本アセアンセンターの藤田事務総長をはじめ、各国大使館のみなさんにもお出でいただき、ショーはもちろん、作品製作に使用された各国の生地見本の展示なども見学いただきながら、小杉学院長および学生と意見交換と交流が行われた。



日本アセアンセンター事務総長と



シーン ASEAN より
ベトナム



シーン ASEAN より
ミャンマー

2015 ターキッシュ レザー デザイン コンペティション 最終審査結果発表

2015年度にスタートした、駐日トルコ共和国大使館商務部を窓口としたトルコレザープロモーショングループと、文化服装学院のファッション工芸専門課程のコラボレーション企画「2015 ターキッシュ レザー デザイン コンペティション」の最終審査結果発表および表彰式が、文化祭会期中にトルコ共和国経済省と大使館の方々をお迎えして行われた。参加した学生たちは、トルコレザープロモーショングループから送られてきたレザーのサンプル帳をもとに「トルコと日本の友好」をテーマに、シューズ、バック、帽子、ジュエリーなどのデザイン画を提出。集まった195点のデザイン画の中から一次審査で6人のデザイン画が選ばれた。

6人には、希望するレザーが提供され、制作された作品は、文化祭のコラボレーション展示室に展示され、大使館と文化服装学院、国際ファッション産学推進機構による最終審査が行われ、トルコ共和国経済省イブラヒム・シェネル次官より賞状が授与された。グランプリには、日本とトルコの国旗の共通の色である赤と白を使用したシューズデザイン科の長島有紀保さんの「太陽と月」が、準グランプリにはバッグ科の永川承美さんの「Floral Emblem」と、帽子・ジュエリーデザイン科の湯本智恵さんの「トルコランプ」が選ばれた。



受賞者とトルコ経済省および大使館の方々（写真上）
グランプリ作品：長島さんの「太陽と月」（写真下）

田山淳朗デザイナーによる特別講義開催

— 文部科学省委託事業ファッションクリエイター人材育成プロジェクト —

平成 27 年度文部科学省委託事業「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進事業」における職域プロジェクトの 1 つであり、文化服装学院が受託、本機構が事務を担当している「地域連携によるファブリックに精通したファッションクリエイター人材育成プロジェクト」のカリキュラムの一環として、11 月 27 日（金）文化学園にて昨年度に引き続き、田山淳朗デザイナーによる特別講義が開催された。当日はプロジェクトに参加する文化服装学院と文化ファッション大学院大学の学生合計 12 名がデザイン画やトワル、使用予定テキスタイルを持参し、コンセプトや作品の特徴を説明。田山氏がそれぞれの学生に向けて作品をより良くするための具体的なアドバイスをしてくださった。プロのデザイナーに直接指導いただくという貴重な機会に、学生の目は真剣そのものだった。田山先生は本プロジェクト参加校全校にて作品制作アドバイスや講義を実施していただいている。各地域プロジェクトの完成作品は 2016 年 2 月 9 日、産学交流会議会場にて発表予定。

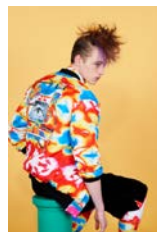
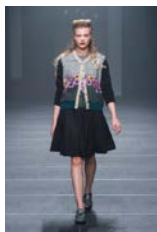


田山先生作品制作アドバイス実施風景

2015 産業交流展に CREATORS TOKYO が出展



18 回目を迎えた中小企業による国内最大級のトレードショー“産業交流展 2015”が、11 月 18 日～20 日まで、東京ビッグサイト西ホールにて開催され、Tokyo 新人デザイナーファッション大賞プロ部門 4 ブランドが出展した。COOL JAPAN ゾーンの中に設置された CREATORS TOKYO のブースでは、4 ブランドの 2015 秋冬からピックアップした商品が展示された。日本の若手デザイナーがオリジナルの生地に対してどのくらい熱心に取り組み、またその熱意を理解した技術者たちによって支えられているかを伝えるブースとなった。



左から、ELZA WINKLER、IN-PROCESS、MIDDLEA、PLASTICTOKYO の 4 ブランドが出展。

文化学園として4組が『FORM PRESENTATION』に参加

繊維・ファッション産業の高度な技術を背景に、テキスタイルへの深い知識を持つ次世代クリエイターを輩出することを目的とした、産学コラボレーション事業『FORM PRESENTATION』（主催：繊維ファッション産学協議会）の発表イベントが、「GOUSEN の進化・冬のパリ…“極上な日常着”」をテーマにジャパンクリエイションの会場で行われ、文化学園からは、文化ファッション大学院大学、文化学園大学、文化服装学院 2 組、計 4 組が参加した。

会場では、企業の方々が全 8 組の参加チームを採点し、1 2 月に行われる報告会で表彰が行われる。



出展された作品